ゼロで働かせるZD

宮浦・宮前地域新聞〝宮前〟から

会社は、ZD運動なるものを、宮浦新労の中に持ち込んだ。

ZDなるものは、先に四山や港務に持ち込まれ、「成功した」と会社はいっている。

だがそれは表面上のことで、実態は、現場での評判は悪く、あるグループ長は、ZDは悩みのタネでノイローゼ気味だ、とこぼしていたそうだ。

ZD運動の内容は

そこで、宮浦に持ち込まれるZD運動の内容を見てみよう。

まずその趣旨の中で「宮浦鉱は保安・生産・技術でも、よそよりすぐれた力を持っている」と、まず労働者をおだて上げ、次に「このすぐれた力をもっともっと向上発展さもるために、自主的に、明るい、活きいきした、働きやすい職場を作ろう」と呼びかけている。

これは、暗くて、危くて、働きにくい職場はお前たちの責任だ。だから、お前たちで良くしろ――といっているのだ。

次に、ZDのグループは、新労組員と職員とで作り、グループ長（新労）、副グループ長（新労）があり、それに職員一名をサブリーダーとしておき、グループの指導援助に当てるという。サブリーダーがグループ長や副グループ長を補佐するのならわかるが、指導援助に当たることは、すなわち、自主的なグループ運営が会社の意志に反するときは、これを取り締まる監視員として、職員のサブリーダーを配置するのだ。

自主とは名ばかり

また、グループ運動の討議内容として、「自主保安、自主出勤、自主改善など、グループで実践できる範囲にとどめ、他人、他のグループに求めるものは討議しない。また、会社規則、組合決定の協約、協定に関するものに触れない」――この点が、宮浦ZD運動の中心的なねらいなのだ。

自主保安　ケガは会社の責任ではないのだ。ケガした本人が悪いのだから、自分たちでケガをしないようにしよう。

自主出勤　出勤督励は世話係にさせるのでなく、自分たちで督励し合おう。また、欠勤しないように監視し合おう。

自主改善　「アーした方がよか」「コーした方がよか」と思ったら、係員や会社にいわずに自分たちの手でしなさい。どうしたらよくなるか、自分たちで考えなさい。

実にもっともらしいことのようだが、実際はどうだろうか。

請負給で追い立てられるように働かねば、金にならない仕組みの中で、自主的に取り組める余裕が職場のどこにあるというのだろう。たとえあったとしても、材料運搬するにも、坑木や機材の上でなければ通れない。炭じんもうもうでも、散水はされない。中食をとる休憩所は、炭じんやホコリの舞う排気道の中。

どれを見ても、保安上、健康上悪いことはわかるが、自主保安や自主改善で解決できるものではない。

そして会社や、係員や、他の職種に要求することは、討議してはならない。

労働条件の話は、会社規則や組合との協定・協約に触れてはならない、と釘すのである。

ZDの自主とは、会社はまったく金をかけず、努力もせず、労働者の犠牲的精神でスムーズに出炭能率を上げることである。

ZD運動の狙いは

ZD運動のねらいは、自主的という言葉で労働者をだまし、労働者同志監視しあわせ、競争させながらいっそうの悪労働条件の中に突っ込ませ、会社のもうけのみに奉仕する労働者を作ること、である。

宮浦の新労組員は、このZD運動を拒否した。さすがである。でも新労組員の気持を聞く前から、早くも繰り込み場の上には、ZDグループ会議場作りが急がれている。

会社は、新労組幹部の手を借りて強引に、ZD運動を新労組員に押しつけてくるだろう。またそれが〝民主的労働運動〟を口グセとする新労組幹部の役割りでもあろう。

くろだいや新聞
48年度保安方針決まる
重大災害絶滅めざし
48年度の前進めざし
ZDとグループ運動
宮浦、三川の両鉱が採用
グループ運動を

宮浦・三川の両鉱でZD運動のスタートを、麗々しく伝えた社内報〝くろだいや新聞〟。

すべり出したZD運動

「労使が一体で」新労幹部
職場の声「悪どい手段だ」
宮浦と三川

四山鉱につづき、三井鉱山は宮浦・三川の両鉱でもこの四月を期して〝ZD運動〟を強力に進めはじめた。

とくに三川鉱では去る一日の発足の日、午前九時半から同鉱の保安講堂で、ZDの歌のメロディーとともに、ZDキックオフ大会が盛大に行なわれ、岡田二郎鉱長が「みんなが意見をだしあって明るい三川鉱の職場づくりに前進しましょう」とあいさつ。

これに対して新労組の佐藤三川支部長が、職組の吉本同支部長とともに、次のような決意を披瀝した。

「従来新友会で建設的な話し合いを行なってきましたが、今後は労使一体となってZD運動を導入し、みんながいっしょになって明るい職場作りに努力しましょう」（〝くろだいや新聞〟の記事による）

でも職場からは「労働者の力でZDを返上しよう。これは明らかに会社が新労組員を三池労組の私たちとひき離し、分裂支配を続けてゆく悪どい手段だ」、との激しい怒りの声があがっている。

変見欄

卒業

主婦

今年は三人目の子供も、やっと高校を卒業しました。

お父さん、ほんとうにご苦労様でした。と同時に、お父さん自身も、来年は三池炭鉱を卒業します。

三十年とひと口にいっても、いろいろ大変なことがたくさんありました。いまは、私傷で四、五カ月休んでおります。でも、寝たきりの病気ではありませんので、ほっとしているところです。

家計のことは心配いりませんから、安心して体をなおして下さい。

そして後一年、無事に三池炭鉱を卒業できますことを祈る、今日この頃の私です。

×

この一文は、この頃「変見欄」に寄せられてきた無署名のもので、なお本文の末尾に、特にこう述べられていました。

「前略。私ははじめて、こんなことを書きます。何時も変見を読んでおります。一度何か書いてみたいと思っておりました。よろしくおねがい致します」

ほんとに、ありがとうございました。どうかほかの主婦の方も、この欄へどしどし感想文を寄せて下さるようお願いします。

編集部

ZD運動

日刊〝みかわ〟から

第一話

○―ZDテなんかん？

▼―アメリカからの輸入もんたん。

○―そらアそうだろ、横文字じゃけんの。バッテン、アメリカから来るたア、あんまりよかこつじゃなかろのオ。

▼―そりがのオ、仕事すっとん面白うなって、あんまり休まんごつなるげなばん。

○―そらア、ほんなこつな。何じゃろ聞いたごたるが、信仰ずっと人生の楽しゅうなるちいう、宗教団体のごたるの。

▼―新興宗教じゃなかろバッテン、まア鳴り物入りで会社がやり始めたつじゃけん、会社のためになるこつにゃ間違いなかろ。

○―ああ、アナカシコアナカシコ。知らぬがホトケか。

第二話

○―四山じゃ、おうじょうしとるげなが。ZDに。

▼―そげんげななア。

○―グループ長てろん、なるもんじゃなかばん。ちイっと、ゼニもらうぐらいではの。

▼―休むと一人ずつ聞いてさらいて、早よ出勤するごつ言うてまわらなんげなナ。

○―そんなら、世話方はいらんじゃっかん。

▼―結局は、合理化ばん。

第三話

○―宮浦では、反対したげなバッテンの。

▼―三川は、なにしよっとやろか。

○―〝くろだいや〟（社内報の一つ）に時どきのっとるが、ほんなハラはグループ長のツラ作りで、ゴマスリよっとじゃなかろかの。

▼―そんかふうくさん。〝Z〟が会社・組合（新労組のこと）合作のスリ鉢で、〝D〟がスリコギがわりのおどんたちたん。

○―じょうだんじゃなかばん。すり減った、おっどんたちばかりじゃなっかん。

▼―ワッハッハ……仲よくスリ鉢の底で……。

○―笑いごつじゃなかばん。ホント。

第五回職新実務者会議

全分会が必ず代表を

開催は五月五日荒尾労働会館

去る十二日〝職場新聞実務者会議〟が近づいてきた折柄、各指導部関係職場新聞代表九人（宮浦三人、四山二人、三川三人、港務一人）に、組織・編集部担当者が加わって、同会議を成功させるための対策を話し合った。

その結果、「合理化春闘に象徴されているわが国の情勢に対する認識を、しっかりと基本に据え」て討議することをきめ、来たる五月五日に荒尾労働会館（後できまった）で開催し、なお次の事項の実現について申し合わせた。

①必ず全職場分会から、原則として代表一人は参加すること。ぜひ二人参加を求める場合は、なるべくその実現について考える。

②同実務者会議までには、全職場分会がぜひとも職場新聞を一回は発行し、実物をもって本当の交流をはかるようにすること。（このため、職場新聞を五十部ずつ増し刷りして、編集部までに前もって届ける）

③会議全体の計画、分散会のやり方については本部で検討する。

詳細は、本部から各指導部を通じて連絡することとなった。

メーデー〝前夜祭〟

30日、市民会館で

ことしの大牟田の〝統一メーデー〟を祝う〝前夜祭〟は、来たる三十日の午後五時三十分から、大牟田市民会館その内容は、おおよそ次の通りである。

出演種目　バンド演奏、合唱、民謡、踊りなど。

出演対象　団体、個人、家族、職場、青婦部、そのほかサークルなど。

特別出演　民謡や、郷土の踊りなどの保存会、など。